



48:12 ヨセフはヤコブの膝から彼らを引き寄せて、顔を地に付けて伏し拝んだ。

48:13 それからヨセフは二人を、右手でエフライムをイスラエルの左手側に、左手でマナセをイスラエルの右手側に引き寄せた。そして二人を彼に近寄せた。

48:14 ところがイスラエルは、右手を伸ばして弟であるエフライムの頭に置き、左手をマナセの頭に置いた。マナセが長子なのに、彼は手を交差させたのである。

48:15 彼はヨセフを祝福して言った。「私の先祖アブラハムとイサクが、その御前に歩んだ神よ。今日のこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神よ。

48:16 すべてのわざわいから私を贖われた御使いが、この子どもたちを祝福してくださいますように。私の名が先祖アブラハムとイサクの名とともに、彼らのうちに受け継がれますように。また、彼らが地のただ中で豊かに増えますように。」

48:17 ヨセフは、父が右手をエフライムの頭に置いたのを見て、それは間違っていると思い、父の手を取って、それをエフライムの頭からマナセの頭へ移そうとした。

48:18 ヨセフは父に言った。「父上、そうではありません。こちらが長子なので、右の手を、こちらの頭に置いてください。」

48:19 しかし、父は拒んで言った。「分かっている。わが子よ。私には分かっている。彼もまた、一つの民となり、また大いなる者となるであろう。しかし、弟は彼よりも大きくなり、その子孫は国々に満ちるほどになるであろう。」

48:20 彼はその日、彼らを祝福して言った。「おまえたちによって、イスラエルは祝福のことがばを述べる。『神がおまえをエフライムやマナセのようになさるように』と。」こうして彼はエフライムをマナセの先にした。

48:21 イスラエルはヨセフに言った。「私は間もなく死ぬだろう。しかし、神はおまえたちとともにおられ、おまえたちを先祖の地に帰してください。」

48:22 私は、兄弟たちではなくおまえに、私が剣と弓でアモリ人の手から取った、あのシェケムを与えよう。」

ヨセフは父からの偏愛を受け、それがもてて兄たちから憎まれて奴隷として売られ、辛苦をなめる人生を送らねばなりません。そのような経験のある人の中には、兄たちだけでなく、自分をそのように育てた父にも恨みを抱くケースが少なくありません。

神様がそのような過去を恵に変えてくださったことは言うまでもありません。しかし、どれほど主の大逆転があるとしても、恨みの思いを消せない人もいます。ヨセフは過去を主の恵みによって変えていただくことができました。そこには兄弟たちに明言したように、「神が私を先にエジプトに遣わした」という信仰と、赦しを宣言した告白があったのです。恨みによって考えたり行動したりしなかったのです。

私たちは主の恵みによって生きるという信仰を決断する必要がありますが、その決断をしたならば、いつまでも過去に囚われることは人生の損失です。

ヨハネはわだかまりを持たずに、父の霊的権威をも認めて、父からの祝福を受けようとしています。それによって自分と子どもたちが大いに祝福されたのです。

またイスラエル（ヤコブ）は、次男であるエフライムを長子として祝福しました。その根拠はわ

かりませんが、事実そのようにエフライムはマナセよりも大きな部族になりました。神様の一方的な選びを証しするものとして、ヤコブの祝福が用いられたわけです。

そのような選び（賜物や使命も含めて）に関しては、クリスチャン同士でもうらやましがったり、不平を言ったりしやすいものです。しかしエフライムもマナセも共に祝福されたのですから、そのことを忘れないようにしましょう。もしも競争心や不満を持つなら、そこから祝福は漏れてしまうことを覚えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

